事例No.	2871
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	山口県

事例区分	地域活性化

タグ	・人材確保・育成 ・関係人口 ・研修会・勉強会

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（人材育成事業）

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第5回）

都道府県名	山口県
事　業　名	やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（人材育成事業）

概　要

○「やまぐち元気生活圏」づくりに向け、地域づくり人材・団体の育成など、市町への支援体制の強化を図る。

創設経緯等

○高齢化の進行により地域を担うリーダーや人材の不足等の課題があり、実施に至った。平成１８年３月、中山間地域づくりビジョンを策定し、平成１８年４月、県庁内に中山間地域づくり推進室を立ち上げ、平成１９年度より、本事業の前身となる中山間地域対策に関する人材育成事業を実施。

（本事業の前身）
中山間地域対策に関する人材育成事業（平成１９年度～）

○昔から実施している事業で、新たに予算獲得等で苦労したことはない。本事業の企画・準備段階において、各中山間地域で課題が異なるしまた取り組み方も様々。そのため、どのように地域に訴えていくか、学んでいくかに気を遣っている。また、企画・準備段階において、市町や委託業者ともコミュニケーションがとれているため、事業を実施できている。

事業の特徴

○・地域、市町、県外とのネットワークが盛ん。
・ＮＰＯ法人市民プロデュースが企画し、幅広い講師選定が可能。
・ＮＰＯ法人プロデュースは協働をテーマにしたワークショップが上手。聴くだけでなく、参加が可能であるという点が大きい。

○事業を通じて県内外の取組みを知ることができる。ノウハウの共有。参加者同士で話をする場が設けられ、支援者同士のネットワーク形成が可能。

○次回に繋がる仕掛けとして、年間計画をＰＲしている。ワークショップ等のなかで、他地域の取組みを知り、また自地域を紹介することで、受講者のモチベーションを高めている。外部から評価されることで、自分の励みに繋がっている。

○刺激、気づきを受け、やる気を高め、自分たちの地域で実践してもらうことを期待している。他地域の方と知り合いになり、ネットワーク形成を図ることが成果。

○地域づくりが進むこと。あるいは参加者同士が繋がっていくことが大きなやりがい。主体的に動き、新たな活動がスタートできる。点が線となり、繋がっていく、取組みが重層化していく。

市区町村との連携等

○事業の実施のお知らせは、市町から各団体に声をかけてもらっている。また、県内の取組み

事例の発表に係る調整等は市町にお願いしている。地域団体活動の情報や団体への声がけ、また（研修内容を）地域づくりに生かしていくということで実を結ぶため、市町との協力は不可欠である。

○市町から、他地域ではどのような取組みをしているか、という質問が多くある。この事業を通じて、県内の各地で取り組んだことを発表することで共有できる。

受講費等

○対象者の費用負担はなし。（参加者は高齢化が進み、バスで来る人が多いため、借上げバスを準備している団体もあるような負担が発生。）

参加者属性等

○事業のなかでも、支援者のつどいについては、地域づくり団体、集落支援員、行政職員と対象者を絞っている。それ以外は、幅広く対象としている。

○中山間地域に携わっている、今から中山間地域に携わりたい等という方を対象としているため、現在の結果に繋がっている。今回男女比の調査があったので、確認したところ多くはないが女性の参加もある。女性が集落支援員になっていることからかもしれない。

実施方式等

○外部委託方式で実施。事業者は、ＮＰＯ法人市民プロデュース

（上記方法を採用した理由）
研修だけでなく、地域に入り、プラン作りもやっている。地域の実情に詳しい。ネットワークで講師と繋がっている。ＮＰＯ法人市民プロデュースは、協働をテーマにしたＮＰＯで、ボランティアのとりまとめ等を務めている。

○人材育成には時間がかかることから、継続が大事。地域づくり団体はもとより、集落支援員や行政職員等の育成が大切であると考える。育成のためには、色々なことを知り、活動してもらうことが重要。具体的な取組みは検討中である。

受講生の反応等

○（中山間地域づくり収穫のつどい）事業を活用し、こんな取り組みをして成果が出たということを発表してもらうのがメインである。

○　終了後にアンケートを実施。その中で、今後のお知らせの可否について、メールアドレスを記載してもらえれば、メールで案内を出している。今後の関係構築が大事であると考える。

○　研修中、参加者同士でお互いに話をしてもらう場を設けている。昨年度、集落支援員同士、ＬＩＮＥでやりとりをしようと話していたが、今年度、その方々が親しく話されおり、関係が続いていることを感じた。

意義等

○「地域づくりは人づくりから」と言われている。人は大きなキーワード。リーダー、活動していく人、支える人の人材育成が重要で、地域の中でこれらの繋がりを産んでいくことで発

展していくものと考える。本事業は、その一助になればと思っている。

○地域づくりの担い手確保が課題である中で、地域のリーダー、活動する人、支える人がこれまで点で活動していたのが、本事業の取組みの結果、点が線となり、繋がりが生まれ、取組が重層化していく兆しを見ることができた。

○地域と社会福祉協議会が連携したことで地域づくりが上手くいっている取組みがあった。

今後の展望

○地域づくりの担い手確保は課題である。今後も継続して、研修参加の呼びかけをしていく。また、内容の見直しも必要。

○ある地域で、地域と社会福祉協議会が連携して地域づくりが上手くいっている取組みがあった。色々な団体との交流・協力が必要だと考えられる。

その他（募集等）

○県から市町を通じて、募集をしている。他には、県ＨＰで募集、記者配布、県の地域おこし協力隊 Facebook で募集、委託業者の Facebook で募集を行っている。実際は地域づくり団体からの参加者が多いため、市町からの声掛けが大きいと感じている。

○元々活動が活発な団体が多く、コロナで集まりができないと良く聞いていた。新たな団体が出てきたということは聴いていない。昨年度、集落支援員を対象にＺＯＯＭの使い方を勉強した。コロナになり、オンラインに切り替えことで、副次的な効果として、リアル開催なら遠くて参加できなかったが、オンラインだから参加できるといった効果があった。